全国の主な神社を紹介いたします。

その前に、神社の中には**大社**と呼ばれるものもあれば、**神宮**と呼ばれるものもあります

こうした、ちがいは何を説明いたします。

まず、**大社**というのは格別の神社。地域の信仰の中核をなした大きな神社で、**出雲大社**、
1
をはじめ、**日吉大社**、**熊野大社**、**諏訪大社**などがこれにあたる。
2 3
つぎに神宮だが、これは天皇家にゆかりがあるか、もしくは日本神話の中で国ずくりに、

大きな役割を果たした神を祭る神社であることが多いのです。

天皇家にゆかりがある神社は、**伊勢神宮**、**熱田神宮**などがありますし、
4 5
日本神話や国ずくりに出てくる神を祭っているのが**鹿島神宮**、**香取神宮**があります。
6 7
これから、神社の紹介をいたしますが、本殿、拝殿はどうちがうかを説明いたします。

神社の中には、本殿と拝殿を兼ねそろえたところもあれば、どちらか一方しかない

ところもある。拝殿しかないところとしては、奈良県桜井市の**大神（オオカミ）神社**
8
長野県諏訪市の**諏訪（スワ）大社**などが有名です。

本殿と拝殿の違いは何かといえば、前者が神の鎮座する場所であるの対し、後者は

参拝のための建物になる。本殿には参拝客はもちろん、宮司でさえ、みだりに足を踏み

入れるとことが出来ない。

神社に拝殿がつくられるようになったのは平安時代の末期からで、仏教の影響だという。

ただし、仏教寺院では内陣（ナイジン）（金堂。本尊仏をまつるところ）と外陣（ガイジン）

（礼堂（ライドウ）礼拝をおこなうともろ）がひとつ屋根の下にあるのに対し、神社の神殿

拝殿は必ず別の建物になっている。

神が鎮座する本殿と俗界の人が出入りする拝殿を、一つ屋根の下に納めることが

出来ないという理由である。

それでは、日本の神道の発展に貢献した、代表的な神社の説明をいたします。

はじめに、**春日（カスガ）大社**を紹介いたします。

9

10　御朱印　　11　南門　　12　本殿

現在は、奈良市春日野町に鎮座しているが、奈良時代の七六八年には春日山の主峰、

三笠山のふもとに藤原永手が創建したのが始まりとされています。

奈良時代の末から明治になるまで**興福寺**と一体化していました。

13　五重塔

主祭神は,タケミカズチのミコト、フツヌシのミコト、アメノコヤネのミコト、ヒメガキのミコトです。

中では、タケミカズチのミコトとフツヌシのミコトは、国譲りの際に活躍した神で、アメノコヤネの

ミコトは天の岩屋事件のときに鏡を差出す係りをつとめ、天孫降臨さいには、同行した神

といわれています。

石清水（イワシミズ）八幡宮を紹介いたします。

14

15　御朱印　　16

京都府八幡市の男山に鎮座し、日本三大八幡宮（**宇佐八幡宮、鶴岡八幡宮**）の一つです。

17　　18

祭神はホンダワケのミコト、（応神（オウジン）天皇、オキナガタラシヒメのミコト（神功

（ジングウ）天皇、ヒメオオカミ、である。

平安時代の八五九年に大安寺の僧侶が**宇佐神宮**にこもったときに、託宣を下され

男山の峰に八幡大神の神霊を勧請下のが始まりとされています。

朝廷だけではなく、武家からの信仰もあつく、源氏の氏神とされていた、

源義家などは岩清水八幡宮で元服したことから、八幡太郎義家と名乗っていた。

伊勢神宮を紹介いたします。

19　御手洗場　　20　内宮入口　　21　内宮　　22　内宮　神楽殿

23　外宮

三重県伊勢市にある皇大(コウタイ)神宮と豊受(トヨウケ)大神宮の総称。

前者を内宮(ナイクウ)、後者を外宮(ゲクウ)といい、両宮を併せて伊勢大神宮、大神宮、

二所大神宮などと呼ばれたが、現在では神宮を正式の名称として、一般には

伊勢神宮と呼ばれている。ちなみに内宮と外宮は6km離れています。

内宮は天照大御神とそのご神体としての八咫鏡(ヤタノカガミ)、およびアメノタジカラ

のミコト、ニニギのミコトの母であるヨロズハタトヨアクツヒメのミコトを合祀(ゴウシ)し、

別宮十社、摂社(セッシャ)二十七、末社(マッシャ)十六、所管社三十を

一方、下宮が建てられたのは雄略()天皇の代とされる。

なお、伊勢神宮では数々の祭りが行われているが、もっとも重要とされているのは、

二十年に一度の大祭、式年遷宮(シキネンセングウ)である。二十年に一度建物

全てを建て直したうえ、装束(ソウソク)や神宝(カムタカラ)も新調して、ご神体を

新しい宮へうつす祭りである。

最近では一九九三年(平成五年)に第六一回目が行われています。

出雲(イズモ)大社を紹介いたします。

24 本殿　　25 拝殿　　26 神楽殿　　27 復元図　　28 注連縄

島根県出雲市大社町に鎮座(チンザ)する。もともとは杵築(キツキ)大社、杵築社、

一八七一年(明治四年)になって、現在の名称に改められた。

主祭神は大国主大宮(オオクニヌシのオオカミ)です。

大国主大宮の隠棲(インセイ)の場所として建てられたのが出雲大社だと言われています。

現在の本殿は江戸時代の一七四四年に建てられたものだが、礎石から千木までの長さ

が八丈(約二四メートル)ある。これでも十分大きく思えるが、平安・奈良時代には倍の一六丈

それより前はさらに倍の三十二丈の高さがあったとも言われている。

三十二丈といえば、約九十メートルである。当時の人からすれば、まさに天にも届くように

見えたに違いない。

諏訪(スワ)大社を紹介いたします。

29　上社　前宮　　30　上社　本宮　　31　下社　春宮　32　下社　秋宮

33　下宮　秋宮、神楽殿

長野県に鎮座(チンザ)する。上社と下社からなる。

諏訪大社は上社と下社の二社からなり、上社は前宮と本宮、下社は春宮と秋宮からなる。

上社の本宮と下社の春・秋の両宮は本殿がなく、それぞれ四隅に御柱(オンバシラ)と

呼ぶ大木を立てる。

寅と申の七年ごとに行われる御柱祭は、その木を取り替える勇猛な祭りとしてしられている。

34　上社　御柱祭　　35　上社　御柱祭　　36　上社　御柱祭

37　下社　御柱祭　　38　下社　御柱祭　　39　下社　御柱祭

祭神は建御名方神(タケミナカタのカミ)と八坂刀売神(ヤサカトメのカミ)

二人は夫婦だそうです。

諏訪湖の水の神とする説もあるが、それよりも製鉄の神とする説の方が有力視

されている。

大神(オオミワ)神社を紹介いたします。

40　大鳥居と三輪山　　41　二の鳥居　　42　拝殿

奈良県桜井市三輪に鎮座(チンザ)する。

祭神は大物主大神(オオモノヌシのオオカミ)

大神神社の建築には大きな特徴がある。本殿はなく、御神体である三輪山と拝殿との

あいだにある三の鳥居を通じて、三輪山をあがめるのである。

これはむしろ、神社がで来る前の、原初の参拝形式をとどめる物と考えられている。

宗像（ムナカタ）大社を紹介いたします。

43　御朱印　　44　沖津宮　　45　中津宮　　46　辺津宮

福岡県宗像市田島に鎮座（チンザ）し、祭神は田心姫神（タゴリヒメのカミ）、湍津姫神（タギツヒメのカミ）、市杵島姫神（イチキシマヒメのカミ）の三女神（サンニョジン）である。

この宗像大社は正しくは宗像郡大島町の沖ノ島に沖津宮、田心姫神（タゴリヒメのカミ）
同村の大島に中津宮、湍津姫神（タギツヒメのカミ）、本土側の但馬に辺津宮、

市杵島姫神（イチキシマヒメのカミ）の三宮からなる。古くから海上安全、現在は

交通安全の守り神として信仰されている。

最後に、厳島神社を紹介いたします。

47．御朱印　　48．鳥居　　49．本殿　　50．平舞台　　51．高舞台

52．能舞台　　53．廻廊　　54．拝殿　　55．釧路厳島神社

広島県廿日市宮島町に鎮座し、日本全国に約500社以上の総本社です。

厳島神社のある宮島は、古代から島そのものが神として信仰の対象とされてきました。

推古（スイコ）天皇元年（五九三年）、土地の有力豪族であった佐伯鞍職（サエキノクラモト）

が社殿造営の神託（シンタク）を受け勅許（チョクコク）を得て御笠浜に社殿を築いたのが

始まりだと言われています。

主祭神は市杵島姫命（イチキシマヒメのミコ）、田心姫命（タゴリヒメのミコ）、湍津姫命

（タギツヒメのミコ）

さまざまな神社とその神徳の分業

日本の神々は、古くから八百万の神（ヤオヨロズ）といわれるように多種多様な形でおられる。そしてそれぞれに願い事を聞き分け、神徳を授けてくれるのである。

いわば、各祭神はそれぞれ専門分野を持っているのです。

もちろん、八百万というのは比喩的な数値であって、実際にそれだけの数の神様がいるわけではないが、記紀神話に現れる神、民間信仰の神、海外からの渡来神などを合せるとおそらく、千を優に越す神々がいると思われる。

古事記を例に取れば、ここでは二六〇余柱の神が登場する。

一例をあげるなら、

海の神　　大綿津見神（オオワタツミのカミ）
　　山中諏訪神社の祭神　　55

水戸（ミナト）の神　　速秋津日子（ハヤアキツヒコ）、速秋津比賣（ハヤアキツヒメ）
　　大阪の**都留彌（ツルメ）神社**の祭神　　56

風の神　　志那津比古神（シナツヒコのカミ）
　　奈良県の**三都（ミコオリ）神社**の祭　　57

火の神　　火之夜芸速男神（ヒノヤギハヤノオのカミ）
　　静岡県の**秋葉神社**　　58

木の神　　久久能智神（ククノチのカミ）
　　西宮市の**公智（クチ）神社**　　59

山に神　　大山津見神（オオヤマツミのカミ）
　　愛知県の**大山祇（オオヤマシ）神社**
　　京都市の**梅山神社**　　60

野の神　　神鹿屋野比売神（カムカヤヌヒメのカミ）
　　愛知県の**萱津（カヤツ）神社**　　61　　**漬けものの神社**

鳥に神　　鳥之石楠船神（トリノイワクスフネのカミ）
　　千葉県の**神崎(コウザキ)神社**　　62
　　東京都の**隅田川神社**　　63

農作物の神　　大気津比売神（オオゲツヒメのカミ）
　　山形県の**白子神社**　　64

ここで、企業と神社について考えて見ます。

世界有数の自動車メーカーで、日本最大の企業でもあるトヨタ自動車の守護神は

愛知県豊田市にある**豊興（ホウコウ）神社**である、この神社は、トヨタが創業された大正十四年

に建立された。

この世界的なビッグ・ビジネスの年頭の始業は、鉄の神様の金山比売（かなやまひめ）、

金山比古（かなやまひこ）を祭る豊興神社への参拝という、日本的な儀式から始まる。

三菱グループの守護神は**土佐稲荷神社**です。

東京三菱銀行大阪西支店の屋上に社殿が建立され祭られています。

取引先の人達で組織する三菱稲荷後援会の主宰で、毎年二月の牛に日に行われる、

祭典には多数に人が参列するそうです。

三井グループの守護神は**三囲（みめぐり）神社**です。

京の豪商三井家が日本橋本町に三越の前進、越後屋呉服店を創業したときの建立である。

三越本店屋上に立派な社殿が造られている三囲神社はよく知られているそうです。

十一月一日が例大祭、毎月一日は例祭で、社長以下幹部が参列して行われ、初午の日

には縁日がたつそうです。

日立製作所の守護神は**熊野神社**です。

日立工場の近くにあった土地の神が守護神になったもので、各工場に分祠されて

会社全体の守護神となり、さらに関連会社の工場にも祭られている。

創業祈念祭（七月十七日）、歳旦祭（さいたんさい）一月一日、

安全祈願祭（七月一日）、鎮火祭（十二月一日）など年6回の祭りが行われています。

独自の鎮火祭は、大正九年、日立工場が全焼したときに二度と災害を出さないように始めた。

ほかに、

東芝の本社・堀河町工場には**出雲神社**が鎮座し、

川崎・横浜市内にある各工場には、主として**稲荷神社**が祭られています。

出光興産は**宗像神社**

資生堂は**成功稲荷**

キッコウマンは**琴平神社**

東京証券取引所は**兜神社**

それぞれの親神さまの分霊を守護神として祭っています。

また、企業に中には、朝日新聞社などのように殉職者を祀った**祖霊社**を持っているところがあるが、これは靖国の思想の企業版ではないでしょうか。